

就任のご挨拶 理事長 高城 俊春 2
 東邦銀行 教育・文化財団の活動 3
 助成金交付先対象団体と活動（平成 27 年度下期文化・スポーツ活動ほか）
 ／奨学金事業について
 原郷のこけし群 西田記念館の展示（報告／案内） 4
 かがやく FLASH 平成 26-27 年度助成団体の活動から 6
 北斗の会「福島自由人」／いわき市レスリング協会／
 新田茂田川ホテルの里保存会／工房おりをり つむぎの会
 SPOTLIGHT TALK
 ふくしまこけし談話会 丹治道孝さん × 土湯こけし工人 太田孝淳さん 8



原郷のこけし群 西田記念館



- 1 特別展「西田峯吉のこけし界への功績」
（4月～7月開催）
- 2 記念事業「雅の会・ふくしま演奏会」
（4月18日開催）
- 3 記念事業「尺八広場がいや ほがらか演奏会」
（6月20日開催）
- 4 記念事業「長谷川ファミリー ほのぼのコンサート」
（8月22日開催）

SPOT LIGHT 原郷のこけし群 西田記念館 開館 20 周年記念

東邦銀行教育・文化財団の「原郷のこけし群 西田記念館」（福島市荒井 アンナガーデン内）は、こし開館 20 周年を迎えました。これを記念して同館では特別展のほか、館内をステージとした演奏会などの記念事業を開催しています。
 特別展は現在「福島のかげし愛好会コレクション展」を開催中（11月30日まで）です。引き続き記念展・記念事業を予定しておりますので、この機会にぜひご来館ください。

【特別展】 12/1～3/31 「西田記念館 20 年の軌跡」
 【記念事業】 10/31（土）「春奏の会演奏会」
 11/14（土）「黒岩春日神社の御神楽の奉奏と稚児舞」

公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
<http://www.tohobankkyoikubunka.jp/>

原郷のこけし群 西田記念館 開館20周年記念トーク
 「原郷のかげし群 西田記念館」

ふくしまこけし談話会
 丹治道孝さん × 土湯こけし工人（ふくしまこけし談話会）
 太田孝淳さん

私にとつての「西田記念館」

丹治：私の伝統こけしとのつきあいは昭和44年、21歳の時からです。当時は何も知りませんでしたから雑誌や文献「こけし―美と系譜」を見て書き写したり、写真は何回も見返したりして知識を深めていきました。そこに出てくるようなこけしは、とても手の届くものではないと思ってきましたので、実物は見たことがありませんでした。特に古いこけしなどは、工人さんを訪ねたときに「うちのじいさんのだ」といつてたまま見せてもらうくらいでした。憧れでしかなかったそうしたこけしを、西田記念館ができて実際に見るこ



丹治道孝さん

はうれしかったですね、最高でした。そして企画展を通してこけしを見る目がどんどん開かれていた、ありがたかったですね。太田：そうですね、特に私は好きが高じて工人になりましたので、古いこけしの実物を見て、作る上で参考になるものがあるというのが非常にありがたいですね。また、さまざまにテーマを設けて、焦点を絞って見せてくれる企画展では、芸員さんの話を聞いてその意図に沿った見方をしていくことで見えてくるもの伝わってくるものがあり勉強になります。丹治：そうですね、芸員さんがいて企画展を次々に催してくださること、こけしだけでなく見方も変えて展示してくれること、これが西田記念館の何よりの特長、ほかのこけし館とのいちばんの違いではないでしょうか。コレクションの一本一本をじっくりと見ることが出来ます。



太田孝淳さん

もとにかく やつてみようというところ……。眼点は、パンパンと打つか丸く染めるとい

丹治：顔、かたち、胴模様、そして姿（全体のバランス）などいろいろあるんですが、私の場合はやはり顔でしょうかね。好きな工人さんだから何でも集めるわけではなく、表情、顔の良いものだけを集めます。工人さんでも自分の好みのこけしというのを持つてらるんですね。でもそれをやる自分のものでなくなってしまうというので、だんだん変えてしまおう。そのいろいろ描いてみる中にもいいものがあったりするんです。太田：そうですね、たとえば眼点、黒目の部分ですが、その入れ方は同じ土湯系統でも人によりいろいろあります。私も自分で作るようになって、目を生かすとはどういうことかなと考えた時に野地忠男さんが「川俣の虎吉のこけしは透かし目なんだ」と話されたのを思い出して、自分なりに追究しています。透かし目とは、黒目の真ん中をわずかに抜くことだろうと思つて、西田記念館にある虎吉こけしや凶鑑を見てみただですが、ほとんど確認できませんでした。でもとにかく やつてみようというところ……。眼点は、パンパンと打つか丸く染めるとい

福島のこけし愛好会「コレクション展」

丹治：私は変わった顔ばかり集めていたのですが、開催中の愛好会展はそうした皆さんそれぞれに違う好みのものが並んでいて、面白いですね。鳴子で出会った「西田記念館を回つてきた」という東京の人も、「五つのが一緒にいることで変化があった」と、とても見応えがあった」と話していました。太田：こけしは一本一本の味わいというものもあるが、群像として見る魅力もありますね。こけし群として見ることで、その個性もまたよくわかる、多彩な魅力が見えてきます。それがこの場所のまわりの風景とも合うしね！丹治：残念なのは、桃畑だったところが皆さんやめてしまわれたことですね……春は本当に良い景色でした。そんな「原郷のこけし群」というふるさとの風景とけ込んだ見方をおしえてくれた西田峯吉さんにも、あらためて感謝したいですね。太田：そして中に入れば、何かしら発見がある、そういう楽しみがいつもある場所……それが私にとつての西田記念館です。

感じて入れるのが一般的です。それを私は、右、左と、二筆でやって、真ん中を少し開けてみたわけです。でも開けすぎてはおかしいし、加減が難しいんです。ほんのわずかな独自の表現なんですけれど、追究はしているんです。

編集後記

6月開催の評議員会・理事会におきまして役員改選が行われ、高城新理事長（巻頭挨拶文）のもと新たな体制がスタートいたしました。銀行以外からの理事長就任は、平成5年設立以来初めてのことで、
 「開かれた教育、文化活動への貢献を更に進めるために」との考えからです。今後も引き続き財団の事業を通して、フレキシブルに全力で貢献して参ります。（KK）

かがやく 平成 27 年 10 月 10 日発行
 発行所 公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
<http://www.tohobankkyoikubunka.jp/>
 〒960-8041 福島市大町 4-4
 電話 024-523-5882 FAX 024-523-3265
 発行人 鹿野 幸一 ©東邦銀行 教育・文化財団
 制作 株式会社 進和クリエイティブセンター
 印刷 株式会社 日進堂印刷所

就任のご挨拶

公益財団法人東邦銀行教育・文化財団
理事長 高城 俊春



この度、東邦銀行教育・文化財団の役員体制が大きく変更されたことにより、図らずも大役を仰せつかり、その重責に身の引き締まる思いでいっぱいです。微力ではございますが、精一杯努めて参る所存でありますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

当財団は、東邦銀行の創立50周年記念事業の一環として平成5年に設立された「東邦銀行文化財団」の後身として、平成24年に国の公益法人改革を受けて公益財団法人へ移行したものであります。地域の文化・スポーツ活動に対する助成事業と「原郷のこけし群西田記念館」の管理運営を事業主体とし、また、公益財団法人化時には「財団法人東邦育英会」の奨学金事業を引き継ぐ等、規模は徐々に拡大し、福島県を支える担い手として一層の発展を遂げております。

過日、東邦銀行の「会社情報」で北村頭取の挨拶文を拝読する機会が

ありましたが、その中で、「当行ではコーポレートメッセージとしてを地域のために」の理念に則り、ふくしまの復興から成長に全力で貢献していく」と述べられていました。このお言葉の中で当財団との関連で特筆すべき点は「ふくしまの復興から成長への貢献」であります。早いもので、東日本大震災とそれに続く原発事故から4年半を経過しております。今では、ハード面の復旧・復興は進みつつあるものの、ソフト面、すなわち県民の皆様の心はまだまだ癒されていないと言いがたい現状にあります。

このような状況下で大切なのは、人々の心のケアであり、ソフト面の充実化であります。現在においても、大震災等に起因する経済的、その他様々な理由で進学を断念せざるを得ない高校生も沢山います。当財団では、ソフト面の充実化の一環として、このような向学心に燃えつつも環境に恵まれな生徒達に、返還の要のない奨学金制度を設け、これからの福島復興

興や日本の将来の為に、まもなくその担い手となっていく彼等を支えようとしております。

また、当財団は積極的に活動している地域の芸術文化やスポーツの各団体に、更なる活動活性化を促すべく助成事業も行っております。地域の芸術文化活動やスポーツ活動の振興が、大震災からの心の復旧・復興と密接な関連があることは言うまでもないことでもあります。芸術文化やスポーツが有している大きな力は、人の心を癒し、大きな感動をもたらす、明日への生きる希望へとつなげる原動力となる大切なものです。

以上のことを踏まえ、当財団が今後とも、刻一刻と変化する世の中の動きを敏感に察知しながら、既存の固定観念に捉われないことなく、「ふくしまの復興から成長へ」変化を遂げる過程にフレキシブルに対応していきけるよう、私もその一員として邁進して参りたいという思いを申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

助成金交付先対象団体と活動

東邦銀行教育・文化財団の助成金交付先対象団体について、1. 平成27年度下期文化・スポーツ活動（平成27年10月から平成28年3月までの期間に実施予定の文化・スポーツ活動）は次の18団体（助成金額210万円）、2. 地域の活性化に貢献する文化活動は次の2団体（助成金額20万円）、3. 高校生対象の文化・教育研究活動は次の3団体（助成金額30万円）に決定しました。（助成金総額260万円）

1. 平成27年度下期文化・スポーツ活動（決定）団体と活動名（文化9団体・スポーツ9団体）

団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所
福島県歌人会（福島市）	第63回福島県短歌祭	H27. 10. 11（日） 郡山市民文化センター
女声合唱団「響」（福島市）	第6回定期演奏会	H27. 11. 3（火） 福島市音楽堂大ホール
北斗の会（福島市）	「福島自由人」第30号発行	発行日 H27. 11. 5（木） H 28.1.30（土）1.31（日） 夢奏蔵
劇団120〇EN（福島市）	劇団120〇EN 第19回公演「命名福島」	H28. 3. 6（日） 福島市音楽堂
福島県庁混声合唱団「きびたき」（福島市）	福島県庁混声合唱団「きびたき」 創立45周年記念定期演奏会	H27.11.28（土）11.29（日） 郡山ビッグアイ市民交流プラザ
ただようまなびや実行員会（郡山市）	ただようまなびや 文学の学校	H27. 11. 22（日） ポラリス保健看護学院内
郡山マンドリンクラブ（須賀川市）	第14回定期演奏会「午後のひととき」	H 27. 11. 1（日） 塩川町福祉センター
塩川コール・アイリス（喜多市）	塩川コール・アイリス40周年記念発表会	H27. 10. 3（土） 喜多方プラザ文化センター大ホール
喜多市松の女声コーラス（喜多市）	つなごう歌の輪・心の和・共生の絆コンサート	
文化部門		
国見ソフトボールスポーツ少年団（伊達郡）	第30回国見町ソフトボールスポーツ少年団駅伝競走大会	H27. 11. 22（日） 国見小学校校庭
あおばバスケットボールスポーツ少年団（福島市）	あおばバスケットボール創立10周年記念大会	H.27. 11. 3（火） 福島市南体育館
余目一輪車クラブ（福島市）	余目一輪車クラブ発表会	H.27. 12. 19（土） 余目小学校
須賀川牡丹ソフトボールスポーツ少年団（須賀川市）	第18回牡丹杯親善ソフトボール大会	H27.10.17（土）10.18（日） 須賀川市民スポーツ広場他
岩江スポーツ少年団（田村郡）	創立35周年記念 岩江スポーツ少年団交流大会	H27.10.24（土）10.25（日） 三春町運動公園グラウンド
飯豊バレーボールスポーツ少年団（田村郡）	飯豊バレーボールスポーツ少年団創立20周年記念大会	H.27. 11. 14（土） 小野町民体育館他
会津ソフトバレーボール連盟（会津若松市）	第20回記念 会津ソフトバレーボール大会	H27. 12. 13（日） 会津美里町高田体育館
内町ソフトボールスポーツ少年団（いわき市）	内町ソフトボールスポーツ少年団創立15周年記念大会	H27. 10. 18（日） 好間多目的運動場
大野玉造りソフトボールスポーツ少年団（いわき市）	大野玉造りソフトボールスポーツ少年団 創立40周年記念大会	H27. 11. 7（土） 好間多目的グラウンド
スポーツ部門		

2. 地域の活性化に貢献する文化活動（決定）団体と活動名（2団体）

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
新田茂田川ホテルの里保存会	ホテルの養殖事業並びに鑑賞会、及びホテル成育流域の草刈りを実施。	旧茂田川並びに流域の環境保全及びホテルの里作りへの地域活動
工房おりをり つむぎの会	織物・紡ぎ・草木染め・羊毛クラフトなど、教室や学校などで講習。	福島県地方の絹産業の伝承と文化交流

3. 高校生対象の文化・教育研究活動（決定）団体と活動名（3団体）

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
県立会津工業高等学校 茶道同好会	地域の行事に参加し、学生茶席として同校セラミック化学科の生徒が制作した茶碗でお茶を振る舞う。	会津若松市と近隣町村
県立勿来工業高等学校 フラ愛好会《Mauloa Laulea》	老人ホームには元氣、仮設住宅には笑顔、子供達には夢を届けるフラ・タヒチアンダンスを踊る。	いわき市内を中心
県立堀工業高等学校 和太鼓部	和太鼓の練習を通して心身を鍛えるとともに、小中学校との交流や地域社会の文化活動に貢献する。	県内の各施設・仮設住宅等

TOPICS 当財団の奨学金事業について

1. 奨学生採用状況

平成27年度奨学生15名を採用し、昭和58年から現在まで432名に奨学金を給付いたしました。（平成24年に当財団が（財）東邦育英会を引き継ぎました。）

2. 奨学生状況（近況報告より）

平成27年度奨学生の抱負・目標等として、子供の健康を栄養面からサポートしたい。

○心理学を学び、悩みを抱えている人々を助けることのできるような人材になりたい。

○地方自治体の職員となり、地域の人々のために働くことができるようにしっかりと勉学に励みたい。

○自分の恩師のような、英語教師になることができるよう精進を重ねたい。

3. 奨学生の募集

平成29年度の新規奨学生の募集は、平成28年5月の予定です。

★お問い合わせは…

公益財団法人東邦銀行教育・文化財団事務局 奨学金担当
TEL 024-523-5882



原郷のほほえみ

原郷のこけし群 西田記念館
福島市荒井字横塚 3-183 (アンナガーデン)
TEL 024-593-0639 / FAX 024-593-0811
http://nishidakinenkan.or.jp/

企画展報告 ■平成27年4月～7月

開館20周年記念特別展

「西田峯吉のこけし界への功績」

西田記念館は東北の風土とこけしを愛した西田峯吉（明治33年～平成5年 島根県出身）の愛蔵こけしと資料を展示する記念館として平成7年4月に開館し、今年開館20周年を迎えました。このため、4月からの企画展では開館20周年を記念し、西田峯吉（敬称略。以下同様）の功績を振り返りながら開館までの様子をご紹介します。

■原郷のこけし

西田コレクションは蒐集にあたっての審美眼の確かさ、公平さ、保存の良さによりその美しさには定評があり、特にコレクションの中核をなす「原郷のこけし」はあたたかみのある素材で造形の美しいこけしが見られます。西田峯吉のこけし収集は大正14年、初めて東北地方を旅行したときに始まり、東北への旅を繰り返す間、東北に



開館時の資料

故郷のような親近感を持つようになり、その風土から受けた旅愁（旅先で感じるわびしい思い）が郷愁、「命のふるさと」、「心のふるさと」へと発展しました。そして、このような気持ちに誘うこけしを「原郷のこけし」と呼び、最終的なこけし収集の選択基準となりました。

晩年、峯吉は「原郷のこけし」について次のように述べています。「こけしのコレクションは数が多い



西田峯吉思い出のこけし

だけで勝ちが決まるとは限りません。こけしを媒体とし、郷愁を心にもつことによつて心の豊かさを保つことが出来ると思います。そのようなこけしが原郷のこけしといえるのではないのでしょうか。」（「原郷のこけし群 西田峯吉コレクション記念展」より）

■こけしの啓蒙活動に尽力

西田峯吉はこけしの啓蒙活動に尽力し、東京こけし友の会の会誌「こけし手帖」はじめ、様々な本や雑誌、新聞への執筆を行いました。特に昭和31年の『こけし』（西田峯吉・土橋慶三著）は一般向けの伝統こけしの本として発行され、こけしの魅力を多くの人に発信しました。この他にも講演会や展示会などへの協力も惜しまず、様々な活動を行いました。このような活動は徐々にこけし人気を高めてゆき、昭和中期をピークとするこけしブームへと発展しています。

こけし界の指導者としても尽力し、昭和28年創設の「東京こけし友の会」では発起人として

て名を連ね、昭和31年～平成3年まで会長としてこけし界をリードする存在でした。また、宮城県鳴子温泉の「全国こけし祭り」では亡くなるまでこけしコンクルの審査委員長を務めています。

蚕専門学校、日本大学へと進み、農林省に入つて蚕糸関係の仕事に携わりました。養蚕を通じて東北をめぐる中、木地師やこけしに対する思いを深めていき、福島に対しても県北地方の養蚕業と土湯木地業が深い関係にあつたことから土湯、

啓蒙活動の紹介

そして福島への思いが強くなつていったと考えられています。



福島のかげしに関する執筆は数多くあり、特に鯖湖こけしの再現や渡辺作蔵こけしの追求、高橋忠蔵の徒弟制度の生活の聞き書き、土湯木地業の研究は福島のかげし研究に大きな功績を残しています。また、昭和49年土湯の薬師こけし堂建立の際には当時の土湯温泉支

■福島との係わり
西田峯吉は豊かな田園地帯が広がる島根県布部村（現在の島根県安来市広瀬町）に生まれました。自宅では養蚕を行つていたため、長男の峯吉は養蚕の専門家となるべく京都高等養

所長と土湯こけし工人組合と共に木地師の里、滋賀県君ヶ畑を訪れ、研修旅行の手助けをしました。この薬師こけし堂の祭典は昭和51年より土湯こけし祭りとして年々盛大に行われるようになり、現在では代表的なこけし祭りの一つとなっています。



作蔵こけし追求の紹介

■(財)東邦銀行文化財団への寄贈

西田峯吉は愛蔵こけしと資料をこけしのふるさとに残して一般に公開したいという強い思いを持っていました。特に土湯こけしには深い愛着があつたため、信頼する友人で福島にも縁があつた小林昇（立教大学名誉教授・元福島大学教授）に相談することで財団法人東邦銀行文化財団（現公益財団法人東邦銀行教育・文化財団）への寄贈の話が進み、平成5年7月に決

まりました。寄贈が決まった際、峯吉は「今日の私の心境です」と言つて1枚の色紙を示しました。そこには「かにかくにこけしは愉し いづくでも胸になき日は 一日もなく」という深沢要（こけし収集家）の詩が記されており、自身のこけしに対する想いや今後のこけし活用の期待が込められているかのようでした。しかし、寄贈が決まった10日後、西田峯吉は老衰のため静かに息をひきとりました。それはまるで、愛蔵こけしの落ち着く先を決めて安心されたかのような大往生でした。



こけし以外の寄贈品

開催中の企画展

開館20周年記念特別展 「福島のかげし愛好会」コレクション展

平成27年11月30日(月)まで



現在、福島県では5つのこけし愛好会が県内を拠点に活動しており、福島におけるこけし活動を盛り上げ、こけしファンを育ててきました。今回の企画展では、開館20周年の特別企画として福島のかげし愛好会の皆様に協力いただき、会員のコレクションをお借りしてご紹介しました。紹介しているこけしは、郡山こけし蒐集会、こけしと語ろう会、地梨の会、福島こけし愛好会、ふくしまこけし談話会のコレクション約700点です。各会の活動やプロフィール、会員の皆様のかげしに対する思いを通してぜひ様々なこけしの楽しみ方を感じていただきたいと思います。

東邦銀行教育・文化財団では、平成28年4月から9月までの期間内に活動計画がある「文化・スポーツ団体」を対象に、平成27年11月1日～12月30日まで助成申請の受付を行う予定です。
 ▶詳しくは当財団のホームページの「助成事業 | 文化・スポーツ活動団体への支援」をご覧ください。事務局 ☎(024)523-5882 までご照会ください。

東邦銀行教育・文化財団が平成26-27年度に助成を行った「文化・スポーツ団体の活動」および「地域の活性化に貢献する文化活動」の中から、福島市の「北斗の会」「福島自由人」、いわき市の「いわき市レスリング協会」、福島市の「新田茂田川ホテルの里保存会」「工房おりをり つむぎの会」の活動の様子をご紹介します。



当協会設立5周年記念大会は、レスリングの普及と青少年の健全育成に向けて、幼年の部、小年の部、中学生の部、成年の部の各部門ごとにワンマッチ方式で開催されました。市内外から8チーム52名、3歳から55歳までの選手らが一堂に会し、入念なウォーミングアップのあと、日ごろの練習成果を発揮してタックルや投

いわき市で唯一のレスリングチーム

文化・スポーツ活動
平成26年度下期助成団体
「スポーツ部門」

いわき市レスリング協会5周年記念大会
設立記念大会

平成26年11月1日(土)・フリナップ井上記念体育館

「バテバテにもかかわらず、笑顔で子どもたちの見本になる試合をしていたお父さんの活躍もあり、ひたむきに頑張ることの大切さを子どもたちに伝えることができたのではないかと感じています」と語る会長は今村浩之さんは、「レスリングは、

東京オリンピックを目指して

大会終了後は、指導講師及び公認レスリング指導員により技術指導や合同スパarringが行われ、互いに技を磨き合いました。

げ技等で懸命に奮闘し、試合に汗を流しました。セコンドについて大きな声で声援するお父さんやお母さんを見て、大会は大変盛り上がりました。

「普段練習しているチームとは違うので緊張したけど、楽しかった!」というなか優秀選手賞・ガンバッタ賞を手にした選手たちは、こうした大会が多くないため機会も限られる受賞の喜びに満面の笑みを輝かせていました。



創刊号からの「福島自由人」

昭和53年に創刊
継続は力なり

同会代表の高橋八重子さんは「福島自由人」発行により、県内の作家の方々の状況がよくわかります。県内外の文学愛好者、その他一般の方々からも発行を待たれており、年に1回の発行を楽しみにされている読者の方々が増えております。感

文化・スポーツ活動
平成26年度下期助成団体
「文化部門」

北斗の会「福島自由人」(福島市)
「福島自由人」第29号の発行

平成26年11月1日(土)・福島市

福島県の文学界をリード

平成26年11月1日、北斗の会の同人誌『福島自由人』第29号が発行され、県立図書館・市立図書館・県文化センター・各高校の文芸部・県内の公民館等に寄贈されました。収載作品は小説4編、詩、評論3編、エッセイ4編、俳句、短歌、特別寄稿短歌、小説1編そして巻末の「同人折々の記」など誌名どおりの自由な構成で、800部の発行でした。

北斗の会は県内の文学探究の自由人が集う同人団体で、毎月1回の例会を通して互いに研鑽を積み、地域に根ざした同人誌により県文学界の向上と文学愛好者の裾野を拡大しようと、年1回同人誌「福島自由人」を刊行しています。

想文もいたたくなど、県内外の読者に喜んでいただけたことは大変ありがたいことです。
 東北からの発信として、文学・歴史・その他、創作・短歌・俳句・随想等の創作発表を通してさまざまな交流があり、互いの発展を望み希望をつないでいることが喜ばしく思われます。今年秋には通算30号を発刊するべく編集作業を進めているところだ」と、旺盛な探求心を燃やし続ける同人メンバーへの熱い信頼を話してくれました。



会代表の高橋八重子さん

北斗の会は、「福島自由人」を発行し県内外とも交流を深めることを目的に、昭和53年5月に文学好きが集って結成された。現会員数15名。

2016年リオデジャネイロオリンピックや2020年の東京オリンピックでもメダルの獲得が期待されているなど注目されている競技です。いわき市唯一の当レスリングチームからも将来オリンピック出場選手が出ることを期待しています」と今後への抱負を話してくれました。

【試合結果】

幼年の部	【ガンバッタ賞】	牧 鷹山
小学生の部	【優秀選手賞】	菊地颯斗
		下村虎太郎
	【ガンバッタ賞】	荒井連馬
成年の部	【優秀選手賞】	池田隼太
	【ガンバッタ賞】	阿部桃衣
	【最優秀選手賞】	鈴木崇敏



平成20年4月に結成、幼年から社会人まで幅広い年齢層の会員が週に4回の練習を楽しんでいる。レベルに応じた内容で無理のない練習を行っており、全国大会での優勝者・入賞者も数多く輩出している。現会員6名。

「地域の活性化に貢献する文化活動」平成27年度助成団体

新田茂田川ホテルの里保存会
(福島市上島渡)

旧茂田川並びに地域の環境保全及びホテルの里作りへの地域活動

地域の原風景を守り子孫に伝え残そうと、当初は川周辺のゴミ清掃や草刈りから取り掛かり、現在はホテルの餌カワニナの養殖も行い「ホテルの里づくり」に取り組んでいます。2013年からはホテル鑑賞会も行っているほか、夏には赤・ピンクの花が満開となる川流域のサルズベリーの樹の手入れ・管理等も行っています。

ホテル鑑賞会は、今では千人余りも訪れるほどになりました。何十年ぶりかで見たといい人は「ホテルはいいね、素晴らしい。来年もまた来るよ、ありがとう!」と言い、初めてその幻想的な光を見て感激し、涙する人もいたとのこと。



工房おりをり つむぎの会
(福島市南沢文)

福島信達地方の絹産業の伝承とその普及への活動

福島信達地方に伝わる全国屈指の養蚕・真綿作りや紡ぎ・織物(手織り)の伝統と技術——その伝承と文化交流に取り組み、教室や学校などで講習しています。

「先人が残した素晴らしい技術と本物の織物を次の世代に伝え、福島の子どもたちに自信を持って、福島には織物がある!」と言ってもらいたいからと手織りにこだわります。また、真綿を糸にしてから染め、糊付けをして織るのが一般的なのに対し、つむぎの会では原料の真綿を先に染めまします。これにより紡ぎの技術が必須となるものの、糸には光沢があり糊付けせずそのまま織ることができるからです。



「福島の実綿を使い、染め、手で紡ぎ、織る。その全てをこの土地で完結させ、後世に伝え残したい」とこの活動への熱い思いが溢れていました。